



市議会だより

発行
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集
市議会だより編集委員会

かかみがはら



チビッコ冒険広場で芝生すべりを楽しむ子どもたち（6月6日・学びの森）

6月定例会

主な議案	2
審議結果	3
委員会調査報告	4

市政を問う 一般質問

命を守る行動の意識付け	6
離婚者のための相談支援	7
小規模事業者の活性化	8
インフラの老朽化対策	9
市民の声、ひとこと	10

水槽付消防ポンプ自動車 5335万6240円で取得 圧縮空気泡消火システム搭載

平成27年第3回定例会を6月5日から6月26日までの22日間の会期で開催しました。市長から提出された議案は、平成27年度一般会計補正予算をはじめとする8案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり可決・同意しました。

平成27年度 一般会計補正予算

新たな交付金の創設に伴う私立保育所施設整備事業をはじめ、小中学校冷暖房設備整備事業に係る国庫補助額の内示に伴う歳入予算の組み替えなど、当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算にそれぞれ2477万6千円を追加するもので、補正後の予算総額は463億7477万6千円となりました。

歳入
○国庫支出金 490万6千円
○県支出金 減額1億6897万6千円

歳出
○繰越金 1億8884万6千円
○私立保育所施設整備事業費

その他の議案

財産の取得
○水槽付消防ポンプ自動車
水と消火薬剤を高圧の空気混ぜて泡を作り、泡とともに放水を行うことで、初期消火・延焼防

止・水損防止・残火処理などに効果が高いとされている圧縮空気泡消火システム(CAFS)を搭載した水槽付消防ポンプ自動車を、5335万6240円で株式会社ウスイ消防から取得するものです。



圧縮空気泡消火システムを使用した放水

平成27年第2回臨時会

平成27年第2回臨時会を5月1日に開催しました。

市長から提出された議案は、土地の取得の追認など6案件で、いずれも原案のとおり承認・可決・同意しました。

土地の取得の追認

平成17年に市が取得した福祉の里東側の須衛天狗谷の土地について、購入の必要性や価格、購入に際して議会の議決を経なかったことなどをめぐって住民訴訟による裁判が行われていましたが、最高裁が原告側の上告を棄却したため、名古屋高裁の控訴審判決が確定しました。

同判決では、本件土地取得の必要性や取得価格については、適正なものであるとしました。しかし、市が1件5000㎡以上の土地を取得

する際に必要となる議会の議決を経なかったことについては、違法としました。

当時、市は本件土地を2つの事業目的で購入しましたが、土地を購入する際の議決の要否の判断基準とした「実務提要」では、事業目的ごとに1件とするの見解が示されており、それぞれの事業用の土地は5000㎡を超えていないため、市はこの見解に従い、議決は不要と判断しました。これについて同判決では、議決不要と判断したことについて故意または過失があるとまでは言うことができないとしながらも、1個の売買契約により取得するものである以上、議決が必要であったとしました。

市は同判決の確定に伴い、土地取得の追認の議案を提出し、議会は原案のとおり可決しました。

審議結果 (5月臨時会)

- 専決処分の承認（平成26年度一般会計補正予算（第10号））……………原案承認・賛成多数
- 専決処分の承認（市税条例等の一部を改正する条例）……………原案承認・全会一致
- 専決処分の承認（介護保険条例の一部を改正する条例）……………原案承認・全会一致
- 土地の取得の追認議決を求めること……………原案可決・賛成多数
- 教育委員会委員の任命（岩田重信氏）……………原案同意・全会一致
- 固定資産評価員の選任（谷野好伸氏）……………原案同意・全会一致
- 選挙管理委員及び補充員の選挙……………当 選
（委員 川瀬兼彦氏、小川一平氏、國定けい子氏、松岡典子氏）
（補充員 ①奥村守浩氏、②船戸義秀氏、③牧田光宏氏、④浅野記子氏）
- 木曾川右岸地帯水防事務組合議会議員の選挙（鷲主英二氏）……………当 選

審議結果 (6月定例会)

- 議会会議規則の一部を改正する規則……………原案可決・全会一致
- 天狗谷土地取得についての調査に関する決議……………原案否決・賛成少数
- 教育長の任命（加藤壽志氏）……………原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦（田中八宏氏）……………原案同意・全会一致
- 平成27年度一般会計補正予算（第1号）……………原案可決・全会一致
- 職員の再任用に関する条例の一部を改正する条例……………原案可決・全会一致
- 市税条例の一部を改正する条例……………原案可決・賛成多数
- 手数料条例の一部を改正する条例……………原案可決・全会一致
- 財産の取得（水槽付消防ポンプ自動車）……………原案可決・全会一致
- 市道路線の認定（市道鶉1381号線ほか3路線）……………原案可決・全会一致
- 平和安全法制整備法、国際平和支援法の廃案を国に求める意見書の
提出を求める請願……………不採択・賛成少数
- 平和安全法制整備法、国際平和支援法の廃案を国に求める意見書提
出に関する請願……………不採択・賛成少数
- 平和安全法制整備法、国際平和支援法の廃案を国に求める意見書の
提出についての請願……………不採択・賛成少数

委員会調査報告

市内での視察

建設水道常任委員会

〈期間〉4月10日

○那加東陸橋

耐震補強・補修事業

昭和62年完成の那加東陸橋の損傷が深刻化する前に、橋面舗装などの修繕と同時に耐震補強を行った。

橋の断面補修やクラックの早期補修などによる橋の長寿命化により、維持管理コストの削減を図っている。

また想定される地震し



那加東陸橋（那加東新町）

ベルに対して、必要とされる耐震性能を確保するために、橋脚のコンクリート巻立て(11基)や、落橋防止システム(13基)の工事を行っている。

耐震補強は橋脚部の工事であるため、普段の通行では気付きにくい場所だが、巨大地震が発生した際に、被害が最小限になるような対策が確実に行われていることを確認した。

そのほか、鵜沼駅東部第二地区都市再生整備事業の状況と、北清掃センターにあるリサイクル施設を視察した。

経済教育常任委員会

〈期間〉4月13日

○総合運動公園（勤労青少年運動場再整備事業）

国土交通省の補助金を活用し、平成26年度から3年かけて、陸上競技場をはじめ一般野球場、少年野球場、少年サッカー場、ソフトボール場、芝生広場などの再整備を行っている。

今年3月に完成した陸

市外での視察

経済教育常任委員会

〈期間〉5月18日～20日

○宮崎県都城市

都城市は畜産が非常に盛んであるが、生産品の価格低迷による農業所得減少、高齢化や後継者不足による農家数減少などの問題を抱えている。

こうしたなか、第1次産業である農林漁業者が、生産から加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）までを一体的に行う「6次産業化」を積極的に推進し、生産者の所得向上と地域経済の活性化に取り組んでいる。

本市でも、特産品の6次産業化を推進し、ブランド力の向上を図っていく必要がある。

○鹿児島市

鹿児島市は情報通信技術（ICT）を活用した教育に力を入れている。視察した市立山下小学校では、電子黒板が全教室に導入されている。パソコンに接続されて

いるので、デジタル教科書や動画を表示できるほか、文字などを書き込んだり、画面を保存したりと、それぞれの授業で効果的に活用されている。

本市でも今年度、全教室に電子黒板が導入される予定であり、大いに活用してほしい。

そのほか、鹿児島県南九州市の平和教育を視察した。

民生消防常任委員会

〈期間〉5月20日～22日

○北海道旭川市

市立神楽保育所は、施設の老朽化に伴い建て替えの検討を、また神楽福祉センターは、街路事業実施に伴い移転の検討を重ねた。

その結果、建築コストの削減や世代間交流を図るため、保育所と福祉センターの複合施設である「いきいきセンター神楽・神楽保育所複合施設」を、平成21年に開設した。

施設の中には3つの多目的ホールがあり、1つは保育所の遊戯室とし



神楽保育所の遊戯室（旭川市）

て、残りの2つは、いきいきセンター神楽の利用者が卓球やダンスなどで使用している。

多目的ホールの壁は可動式であり、移動させることで、いきいきセンターと保育所が一つのホールでつながり、年に数回世代間交流を行っている。

また保育所の運動会などのイベントでも、高齢者の方と交流を積極的に行っており、世代間交流の有効な方法の一つとして参考とした。

そのほか、札幌市で子ども発達支援総合センター「ちくたく」と緑ヶ丘療育園を視察した。

上競技場は、ブルーウレタン塗装のトラックが整備されており、雨の中の視察であったため、全天候型グラウンドであることが実感できた。



完成した陸上競技場

○航空宇宙科学博物館

開館から19年が経過しており、リニューアルの検討に着手している。県からの支援も予定されており、県とすり合わせを行いながら平成27年度中にリニューアル構想をまとめ、翌年度に基本計画を策定し、リニューアルに着手する。当館は各務原市のシンボルであり、世界にも誇れる博物館として市内外

に発信できる施設となるよう期待したい。

民生消防常任委員会

〈期間〉4月20日

○東海中央病院の

緩和ケア

緩和ケアとは、がんなどの悪性腫瘍を患った患者が有意義に過ごすことができるように、症状緩和を主として支援していく医療であり、県内で3番目となる緩和ケア病棟を開設した。緩和ケア病棟は、疼痛緩和や精神苦痛の緩和、在宅療養の調整、遺族ケアなどを行っている。

緩和ケア外来は患者数が年々増加していることから、週3日行っていた外来を週5日に増やすことで対応している。東海中央病院の緩和ケアでは、地域医療との継ぎ目のない連携の構築を目指している。そのほか、岐阜県防災航空センターにて、防災ヘリコプター若鮎や上空を想定した確認動作、降下訓練を視察した。

建設水道常任委員会

〈期間〉5月25日～27日

○高知市

新エネルギーの導入や省エネルギーの推進などについて、将来の方向性を明らかにするとともに、市民・事業者・行政の役割などを明示した総合的な構想として新エネルギービジョンを策定した。新エネルギー導入の推進では、自治会などが所有する集会所に太陽光発電設備や蓄電設備を設置する際、費用の10分の6（上限150万円）を補助している。

スマート・エネルギー利用の推進では、スーパーなどと協力しCO2排出削減のため、自転車の利用を促進する「サイクル&SHOPライド」を行っている。これは、バス停や電停近くのスーパーの駐輪場まで自転車で行き、そこから電車やバスに乗り換えて通勤・通学することを促すもので、帰宅時にはスーパーでの買い物も

見込めるなど、両者にとって効果的な取り組みであった。

また、高知市では平成21年度から雑がみ資源回収を行っており、導入当初の状況や分別・周知方法などについて確認することができ、今年度、モデル地区で実施する本市にとって非常に参考となる内容であった。

そのほか、香川県丸亀市の丸亀街道ゾーン整備事業、愛媛県松山市の環境モデル都市の取り組みを視察した。

総務常任委員会

〈期間〉5月25日～27日

○新潟県見附市

国は空家対策特別措置法を5月26日に施行したが、見附市では積雪による家屋倒壊の危険性が非常に高いというところで、国の措置法より先に条例を制定した。

条例の制定に伴い、空き家の所有者を特定するために固定資産税の記録の照会、倒壊や衛生、防犯上著しく有害となる空

き家に対して改善を求めることが可能となった。条例が施行されたとはいえ、個人の財産であるため問題点も多く、解決しなければならぬ課題はあるが、引き続き地主や大家などと粘り強く交渉を行っていくとのことである。

本市においても、高齢者の施設入居などで空き家が増えていく傾向にあるため、早めの対策や対応が必要であると感じた。そのほか、群馬県前橋市のクレジット・モバイルレジ収納、新潟県三条市の防災・減災事業を視察した。



説明を受ける委員（見附市）



防災訓練における搬送訓練

▼問 子どもたちに命を守る行動の意識付けをするための訓練は。

ほか、教員にも知らせず
に抜き打ちで緊急避難訓練
なども行っている。

子どもたちに命を守る行動の意識付けを

1泊2日の防災キャンプを実施

▼答 各学校での避難訓練を「命を守る訓練」と名称を変え、まず自分の命を守ることや素早い避難について指導している

▼問 大規模災害への自治体の心構えは。

▼答 行政が最優先に考えるべきことは、市民の生命・財産を守ることであり、これは平常時ににおいても同様である。

災害の備えに十分という
ことはなく、どれだけ
想定しても想定外のこと

市政を問う 一般質問

6月18日、19日の2日間で一般質問を行いました。
質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

水野盛俊、横山富士雄、太竹大輔、坂澤博光、瀬川利生、
波多野こづめ、黒田昌弘、仙石浅善、津田忠孝、永治明子、
杉山元則、五十川玲子、岩田純正

一般質問

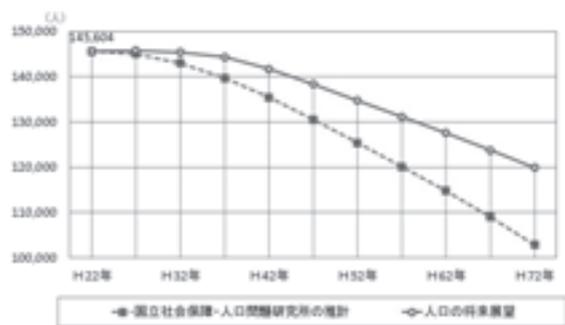
▼問 市民が協働で災害に立ち向かう方策として、土のう袋を身近に活用できるようなしては。

▼答 土のう袋の活用については、防災対策の基
本方針と市民協働の意識
をあわせて、検討する必
要があると考える。

▼問 「人口ビジョン」の策定に当たっての基本
的な考えは。

▼答 平成27年の本市に
起こりうることを考え、市
長以下職員や関係機関が
一丸となり、市民の生命
・財産を守っていく。

人口ビジョン



本市における人口の将来展望

▼問 人口問題研究所の推計より2万人多い約12万人とし、人口減少対策に果敢に挑戦していくため市の将来展望を示す、人口ビジョンを策定した。その実現のために取り組む施策の方向性を本市の特性に即し「産業・雇用」「子育て・教育」「魅力向上」の3分野と定めた。

▼問 人口減少を真正面から受け入れる姿勢も大切では。

▼答 長期的に見て人口減少は避けられない状況であることを真摯に捉え、

課題に対し適切に対処していくことが大切である。
地方創生は数十年先を見据えた息の長い取り組みであるが、市民や議会と力を合わせ、総合計画に掲げた将来都市像を実現できるよう努めていく。

▼問 平和事業の一環で、戦後70年の節目として行う企画展の狙いと考えは。

▼答 8月8日から16日までの期間、あすかホールで「戦後70年・明日の各務原市へ」を開催する予定である。

この企画は、戦前から戦後の歴史と、今日の各務原市へ成長する過程を解説しながら、本市の魅力を生かして、本市の魅力を市内外にアピールすることを狙いとしている。

この企画を通じて、市内外の方々が空襲の惨劇にしっかりと向き合い、平和への願いを新たにするとともに、航空機産業を担う本市の未来を思い描いていただくことで、各務原市らしさを実感していただくと考えている。

離婚者のための相談支援は

法律相談窓口の紹介、関係機関との連携

▼問 離婚による養育費に関する相談や、子どもとの面会が行われないことに関する相談件数は。

▼答 本市は、母子・父子自立相談員を2人配置し、子育て支援全般について相談・支援業務を行っている。

平成26年度中に相談員が受けた相談件数は、2513件であり、そのうち養育費に関する相談件数は62件、面会が行われないことに関する相談件数は1件である。

▼問 離婚に伴う各種相談にどのように対応しているか。

▼答 専門的な知識を必要とする相談には、市が実施している「女性のための法律相談」をはじめ、「岐阜県ひとり親家庭等就業・自立支援センター」や「法テラス」などの法律相談窓口を紹介するな

ど、少しでも早く解決できるよう関係機関と連携を図るなどの支援をしている。

また、相談窓口でパンフレットを配布するほか、ウェブサイトや広報紙を活用した幅広い情報提供などを行っている。

多子世帯への支援

▼問 3人以上の子どもがいる多子世帯などの状況は。

▼答 平成27年5月1日現在では、全世帯数5万7456世帯のうち、18歳未満の子どもが2人いる世帯は約6500世帯、3人以上いる多子世帯は約1800世帯となっている。

▼問 多子世帯に対して、どのような支援をしているか。



池で遊ぶ子どもたち

▼答 第1子が保育所や認定こども園などに通っている場合は、第2子は保育料や利用者負担額が半額、第3子からは無料になる。

また幼稚園については、小学3年生以下の子どもがいる場合に、第2子に対する保護者負担が半額に、第3子からは無料になるよう就園奨励費として支給している。

▼問 結婚・出産・子育ての環境整備により、住み続けたいと思えるまじにするための具体的な取り組みは。

▼答 「妊娠期から始め

るハッピー子育て講座」や「こんにちは赤ちゃん訪問」などを行い、安心して子育てが出来る環境整備に取り組んでいる。また、平成28年度に建設予定の鵜沼市民サービスセンターには、新たに子ども館と保健相談センターの機能を備えた東の子育て支援の拠点を設け、総合福祉会館と併せることで、いつでも子育てや健康の相談ができる環境整備のさらなる充実を図っていく。

今後多様化する子育て支援ニーズを適切に把握し、子どもを産み、育てる場所は「各務原市」と思っていただけのように、地域やボランティア、NPO、企業などと協働し、妊娠・出産から子育てを切れ目なく支援していく。

キッズページ

▼問 子どもたちに本市の魅力を届けるため、市

ウェブサイトに「キッズページ」を開設する考えは。

▼答 平成25年4月に全面リニューアルしたウェブサイトに、市政情報をはじめ、子育て応援サイト「ポケット」や市長との対談を動画で紹介する「あさけんの部屋」など幅広い世代に向けた情報発信をしている。

子どもたちが、自分たちの住むまちの歴史や産業などに関心を持ち学習をすることで、他市に誇れる魅力を確認できるよう、7月中旬までに各務原市版キッズページを開設する。



開設されたキッズページ

小規模事業者の活性化の考えは

プレミアム商品券の発行など

▼問 小規模事業者の活性化への取り組みは。

▼答 幅広い支援を行う商工会議所との連携が不可欠であることから、市職員を派遣するなど、他市にはない密接な連携関係を構築している。

現在はプレミアム商品券発行事業をはじめ、中小企業の振興や地域活性化を目的とした各種事業を実施している。

▼問 今後の支援は。

▼答 昨年「創業支援事

業計画」を作成し、市が創業に対する窓口となり、商工会議所や地域金融機関、大学などに向けて市内創業希望者への支援を促している。

今後も商工会議所とともに、小規模事業者に寄り添って各種相談に応じる「伴走型の支援」を実施し、さらなる活性化・地域経済の活力強化につなげていく。

▼問 従業員50人未満の中小企業向けにストレスチェックの実施費用を補助する考えは。

▼答 厚生労働省が産業保健活動総合支援事業の一環として、ストレスチェックに対する助成を行うが、助成金の申請にはさまざまな制約条件や書類作成業務が発生するため、商工会議所と協力して活用しやすいよう支援する。

プレミアム商品券



教育の方向性

▼問 教育行政を担うに当たり、どのように取り組んでいくのか。

▼答 学校が家庭・地域社会との連携を深め、子どもたちが確かな学力を身に付けるとともに、多様な価値観に触れ、心豊かであらうと努めていく。

▼問 小学校低・中学年から英語を教科化する考えは。

▼答 英語の音声や表現に慣れ親しむこと、外国の文化や生活に触れることを重点に考えているため、英語の教科化は現在のところ考えていない。

▼問 小学校高学年における教科担任制の成果は。

▼答 児童の技能の伸びや学習意欲の高まりを実感している。

また、若手教員は専門

教員などの授業指導から指導方法を学べるため、指導力向上の場となっているとともに、複数の教員で児童を見守ることで、児童に安心感が生まれ「授業に集中する姿が増えた」という声もある。

▼問 難聴学級に在籍する生徒に対し、どのような配慮をしているのか。

▼答 一対一の指導などにより、ほとんどの学習は理解できている。

交流学級などの授業では、教員の声を補聴器に送るFMマイクの使用や特別支援アシスタントなどによる個別対応を行っている。

沖縄国際映画祭

▼問 沖縄国際映画祭への参加を通して、今後の意気込みは。

▼答 沖縄国際映画祭は全国各地で、その土地ならではの映画を制作し、



沖縄国際映画祭

その街の魅力を全国に発信する地域発信型プロジェクトが大きな特色となっている。

映画祭では、市民が制作に参加した地域発信型映画「きつといつの日か」が上映されただけではなく、横断幕を掲げレッドカーペットを歩いたり、映画館で舞台挨拶をしたり、さらには特産品をテレビで紹介したりするなど、本市をPRする貴重な機会となった。

今後はこの映画を通じて、本市の風景の美しさや産業の活力、地域の人々の温かさを全国に伝えたいと考えている。

インフラの老朽化対策は

長寿命化計画に基づき修繕を実施



長寿命化工事を行う那加橋

▼問 インフラの長寿命化計画の期間は。

▽答 長さ15m以上の橋は、他のインフラに先駆け平成20年度に「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、平成23年度から9カ年計画で補修および耐震化工事を行っている。

この他、すべての小規模な橋と主要な道路施設は、平成25年度より実施しているストック総点検の結果を踏まえて、今後4年以内に修繕計画を策

定する。

▼問 インフラ整備に伴う事業費の見込み額は。

▽答 平成27年度から31年度までの5年間の事業費は、橋に約4億2千万円、公園に約2億2千万円、下水道に約14億5千万円を見込んでいます。事業費の合計約20億9千万円のうち、約8億9千万円は国庫補助金を活用する予定である。

▼問 市街化調整区域で下水道整備を拡大する予定は。

▽答 平成28年度から5年間の事業計画において、市街化区域に加え、市街化調整区域も整備を拡大する予定である。

雑がみ回収

▼問 雑がみ回収啓発事業の進捗状況は。

▽答 川島地区をモデル地区とし9月の事業実施に向け、雑がみ回収袋の作成などの準備を進めている。

▼問 モデル地区への周知方法は。

▽答 自治会を通じて雑がみ回収事業の協力をお願いするとともに、雑がみ回収袋や啓発チラシの全戸配布などを行い、周

知に努める。

▼問 雑がみ回収を市内全域で実施する考えは。

▽答 モデル地区における実績や可燃ごみの減量効果を検証するとともに、アンケート調査なども行いながら、市内全域での実施に向けて前向きに検討していく。

博物館のリニューアル

▼問 航空宇宙科学博物館リニューアル構想のコンセプトは。

▽答 リニューアル構想検討委員会からの基本構想中間報告では、大きく4つのコンセプトが示された。

- ①日本の航空宇宙技術の歴史を俯瞰できる施設とすること。
- ②子どもたちに「宇宙大空への夢」をはぐくむ施設とすること。
- ③航空宇宙文化を発信する拠点とすること。
- ④県を代表する観光施設



リニューアル構想検討委員会

▼問 JAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携する考えは。

▽答 技術開発を実際に担っている専門的な機関と連携することは不可欠であると考えるため、JAXAが所有している人工衛星の試作機や宇宙の実際の映像の提供、教育プログラム開発へのスタッフの派遣など、高度な専門性を生かす分野での協力をお願いしていく。

市民の声

こんな街がいいな!

～わたしたちの夢、願い～

アルプスと挨拶が未来を照らす

スポーツの街 各務原

ますます幸せを実感できる街に



各務船山町
大堀 和道さん

今の地に住んで20年、眼前には里山登山を楽しめる各務原アルプスが広がっています。

登山道も整備されていて、子どもから高齢者まで安心して登れます。

今後新たな登山道が開かれることを願っています。

私も心身のリフレッシュのために山へ登り、四季の変化を五感で感じ取れるのも楽しみです。

山登りでは初めて出会う人にも、自然と気軽に挨拶をして交流を楽しめます。

私はこの体験と同様、自ら進んで笑顔の挨拶を心掛けています。

笑顔の人が増えれば元気が出ます。

私たちの街が明るくなり活力が生まれます。

そして住みやすい街に輝くことを期待します。



小佐野町
永縄 太一さん

各務原市で生まれ育ち、柔道で日本一を目指し、大垣日大高校に通って日々精進しています。

小中と各務原市柔道少年団に所属し、練習をしてきました。

中田先生や篠田先生、形競技で世界チャンピオンの今尾省司先生方に指導していただき、全国大会にも出場することができました。

そして何よりも各務原市がスポーツに力を入れているおかげで、今も柔道が大好きです。

また、今しか挑戦できない東京五輪などでぜひ色々な経験ができたらなあと思っています。

これからも各務原市からチャンピオンが生まれるようにスポーツを推進し、「スポーツの街」と言われるように盛り上げてほしいと思います。



松が丘
山下 晴彦さん

「あったらいいな」のお話です。

少子高齢化が進む昨今、お墓は身近な話題の一つですね。

お墓あるけど、子どもたちが仕事で遠方にいるから、今後、お墓の管理は大丈夫かしら？この各務原市でお墓を持ちたい！などなど、お墓への思いはいっぱいあります。

笑顔があふれる元気なまちには、お墓の管理も重要です。

公園タイプで無宗教、みんな静かに眠れるところあったらいいですね。

各務原に住んでいればお墓の心配はなし！

こんな街ならますます幸せを実感できますね。

「あったらいいな」のお話でした。

ひとこと

▼今年も太陽がまぶしい、夏真っ盛りの時期となりました。

まだまだ暑い日が続きますので、健康には十分ご注意ください。

さて、年に4回発行している市議会だよりは「読みやすい」「分かりやすい」「親しみやすい」を心掛け、各委員が紙面を分担し、内容の濃い紙面作りに取り組んでいます。

今後も市議会だよりを通じて議会の様子を皆様にご報告してまいりますので、よろしくお願いたします。(仙石浅善)

▼平成27年は臨時会があり、既に3回の本会議が開催されました。

毎回、多くの皆様に傍聴にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

さて、子どもたちは夏休み真っ最中！

宿題は、はかどっていますでしょうか？

環境保護のため植物インキを使用しています。

市議会を見にきませんか？

平成27年9月定例会の日程(予定)

8月31日	本会議 開会
9月10日・11日	本会議(質疑・一般質問)
9月15日～18日	常任委員会
9月25日	本会議 閉会

※日程は議事の都合により変更になる場合があります。

坂澤 博光

瀬川 利生

岩田 紀正

黒田 昌弘

大竹 大輔

仙石 浅善

市議会だより編集委員会

委員長 大竹大輔

副委員長 仙石浅善

委員 黒田昌弘

委員 大竹大輔

委員 仙石浅善

委員 黒田昌弘

委員 大竹大輔

委員 仙石浅善

委員 黒田昌弘

委員 大竹大輔

委員 仙石浅善

委員 黒田昌弘